

いのちの授業【技術科】学習指導案

指導者 T・S

1. 本時の指導

(1) 題材 プレゼンテーション力を身につける

(2) 目標 発表者の表情により、与えるイメージが変わることを理解し、プレゼンテーションには、言葉以外の要素が影響してくることを知る。(技術科)

人のコミュニケーションは、非言語(ノンバーバル)が与える影響が言葉よりもはるかに大きいことを知り、人とのよりよいコミュニケーションが、豊かに生きることの大切な力であることを理解する。(いのちの授業)

(3) 指導過程

	学習活動	主な発問()と指示()	指導上の留意点(・)と評価()
導入	表情ポスターをみて、その表情はどんな感情を抱いているのか予想する。	ここに、表情ポスターがあります。 あなたの今の気分は、何番の表情のものですか表情をみて、その時どんな感情を抱いているのかを考えて見ましょう。	<ul style="list-style-type: none"> 表情ポスターを黒板に貼る。 今の感情を、数名に聞く いくつかの表情を見て、感情を予想できているか。
展開	この女性の怒り、嫌悪、幸せ、恐怖、驚き、悲しみは、どの絵であるか考える ノンバーバルコミュニケーションについて理解する	<p>それでは、プリントを見て、この女性の怒り、嫌悪、幸せ、恐怖、驚き、悲しみは、どの絵であるか考えてみましょう。 出来た人から、プリントを持ってきてください。</p> <p>出来た人から、次の2つの写真のうち、どちらが親子関係か、理由をつけて考えなさい。</p> <p>実は、言葉は、伝えたいことの7%しか伝えないとされています。 最初の問題は意外と難しいです。どの表情とどの表情が間違いやすいですか？ 人間の表情は実に複雑です。うれしいときに笑うだけでしょうか？</p> <p>親子関係について、表情にこだわらず、本当に親ならどんな抱き方をするでしょう。</p>	<p>実際の写真をみて、どの感情を表しているのか考える。 一人ひとり、出来た人から持ってこさせる。当たっていたら、次の問題に向かわせる。</p> <p>答えはどうあれ、自分の考えを出すことができる。</p> <p>ノンバーバルコミュニケーションの説明を集中して聞いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 嫌悪と怒りの表情が似ていることを間違った生徒から答えてもらう 嬉しいときに泣いたり、悲しいときに笑うなどの逆転の表情がでることに気付かせる。 ここで、初めて答えをいう。 理由を聞いていく 子との距離。抱きしめる様子。 間違っているにもかかわらず、その問いの着眼点は当たっていることをいう。子どもが嫌がっても抱けるのが親。記念写真みたいな写真でないからこそ親子
まとめ	他の非言語について、考える。	<p>コミュニケーションは、豊かに生きるために大切な力なのです。</p> <p>コミュニケーションには、言語と非言語とがあります。実は、言語で自分を思いを伝える力は、100のうち、7%しかないといわれています。その他の部分は、非言語の部分なのです。</p>	<p>ノンバーバルコミュニケーションを自分なりに取り入れた接し方を心がけようとする</p>